

S02-4 スクリプス研究所 Janda 研への留学経験を振り返る

○重永 章¹

¹徳島大院医歯薬

演者は 2004 年に徳島大学大学院薬学研究科博士後期課程を修了した直後より約 1 年間、米国スクリプス研究所 Kim D. Janda 先生の元へ留学する機会を得た^[1]。それから既に 10 年以上経っているため、最先端の研究を担っている学生の皆様にとって、当時の演者の研究内容はすでに新鮮味を感じることができないと思う^[2]。そこで本講演では、研究内容についての紹介のみではなく、学位取得直後の海外留学経験がその後のキャリア形成や研究テーマ設定などにどのような影響を与えたのかについて、いわゆる“優等生的模範解答”のみではなく、学生の皆様が知りたいであろう“実際のところ”も含めつつお話しできればと思う。なお、演者の至った結論は『学位取得直後に海外留学する価値は大いにある』である。

【参考文献】 [1] 重永 章 “留学体験記 スクリプス研究所 K. D. Janda 研の紹介” *Peptide Newsletter Japan* **2005**, 58, 5. [2] Shigenaga, A.; Moss, J. A.; Ashley, F. T.; Kaufmann, G. F.; Janda, K. D. *Synlett* **2006**, 551.

【略歴】 2004 年 徳島大学大学院薬学研究科博士後期課程修了、学位（博士（薬学））取得ののち、米国スクリプス研究所化学科 博士研究員、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 教務員および助教、講師を経て、2015 年より徳島大学大学院医歯薬学研究部 講師。この間、2013 年～2017 年 科学技術振興機構さきがけ研究者を兼任。